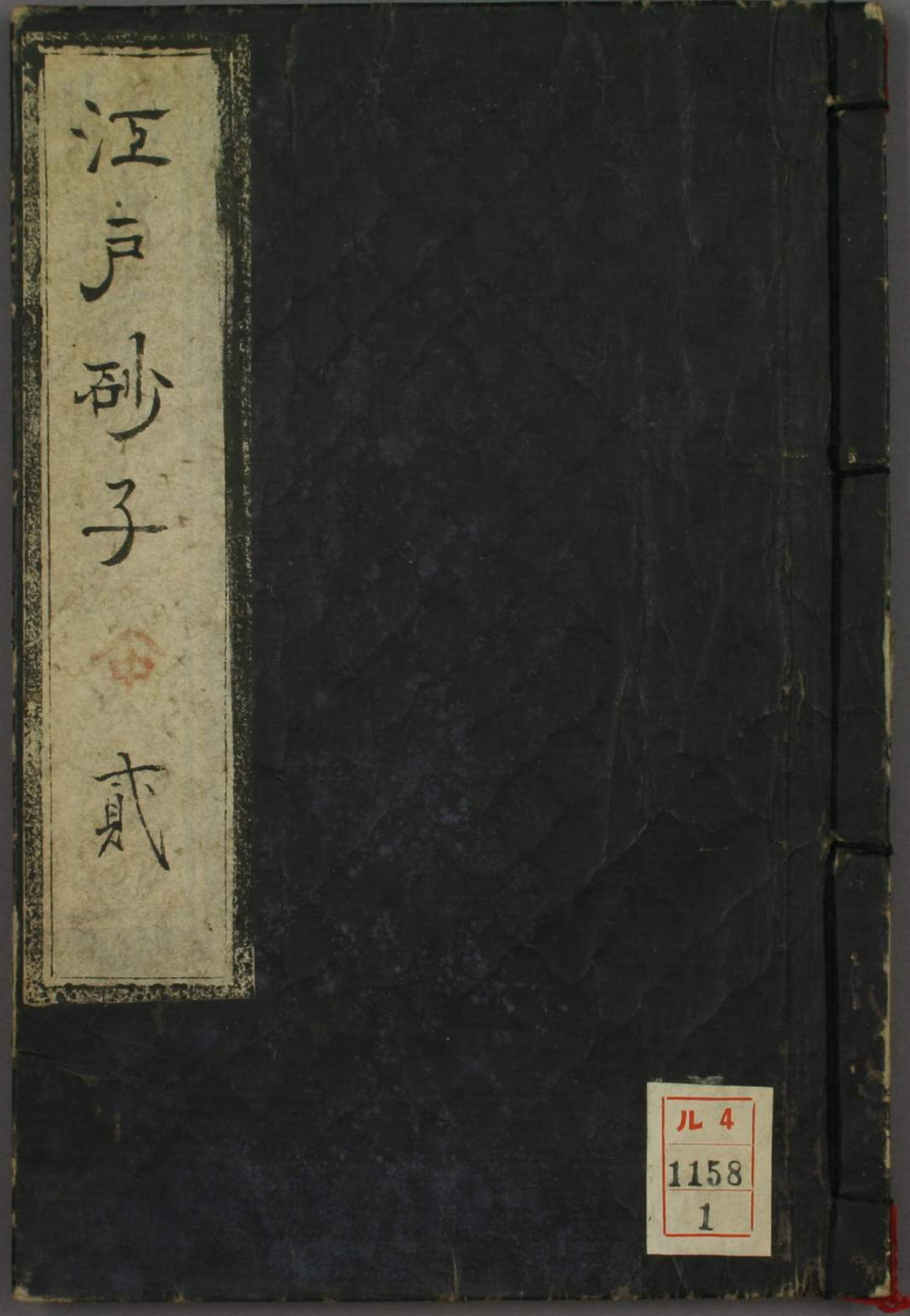




江戸砂子
戒

ル 4

1158

1



1158



江戸破子温故名跡誌卷之二 沾涼纂緝

五 浅草 花川戸 山之宿 新寺町

六 今戸 同 橋場 山谷 新吉原
足立郡洲元千住

七 下谷 同 池之端 坂本 金杉

[Faint handwritten notes and bleed-through from the reverse side of the page.]



浅草
下谷
方角

小塚原

登壇

橋場

牛所
沼

春

東敵山

湯島天神

神田明神

神田

土手

本所
祐原

五 浅草

花川戸

新寺町

○第六天神社

浅草寺門乃外

神主 鋪木 不出羽守

祭神

面足る惶根多なり是天神才六のお神なり

天神

神皇寶錄 天神六代間有各無取五位神座

配るるは土佐の神又説六天の麻羅修羅王乃事なり

他化自在天の主なりは天欲界の才六なり

祭神

元河美前あり享保四年丙申より

○篠塚稻荷社

日西

新田義貞の長篠塚修築より

祭神 稲荷を勤王と云ふ又説は

篠塚大田守と云ふ稲荷の古なり

○鬼脚八幡宮

鬼脚のあり八幡の古なり

○十王堂

所蔵

真鏡山宝理院大園寺

上野末

○岡魔堂

所蔵

新光山理性院長延寺

上野末

意美大師の用基性古下野のあり

石碑あり文永十一年の銘あり寛永十九年

奉尊岡魔王 参一丈六尺

運慶の作

三途川老婆

参六尺

日比

化馬地藏

又油の地藏

聖徳太子の作

敬勝

毎年正七月の十六日奉詣り

○鳥越大明神

元龜越町に在

神主 鋪木 毛澤

祭神 天兒屋命

日本武尊二所より

後冬よりしと云ふ平親王将門の冥を

其のむくわいを祀りて

穀を祀りて

神社に祀りて

九百年に

○三嶋社

信濃縣南の西郷田の中一この地帯
あは上野のありと坂に有え縁石に
神社考曰聖武天平五年三島明神現

○駒形堂

浅草の川にあり 紫法王の
朱雀院沙堂天慶五年に安房太守平公雅建立なりと云
かき馬次観音ししを作りて法相を刻るなり
この馬堂の中よりみくらさるるて世に駒形堂といふ
川にあり浅草寺の縁石宣徳二年碑あり此縁石をてまきし

○澤の淵

駒形堂の南あり
ひー浅草寺の南のまかり極をありしを澤の淵の字と成るなり

○浅草川

上流川と云隅田川宮戸川とも云ふなり一説なり
浅草經北川のありしと云浅草經若菜のありしと云ふなり
もすて入にたりしと云今八品川流をたもてしと云

○並木町

紫法王の松葉なるなりと云今八品川流をたもてしと云
扇形縁石ありと云今八品川流をたもてしと云

○藍深川

雷神門の南の廣く東の南の小川を云

○花方溪

竹間の中を流るなり○花川戸○山の嶺

○一権現

信濃のうん堂と云 別當現生院

浅草寺の親も水の中より出現の時とていふなり
建久の親も水の中より出現の時とていふなり
人々をわんせといふなり

○浅草退分

山の南の先 千住あたりに浅草退分の地あり

○聖天宮

金龍山本龍院 天台 浅草寺末

○侍乳山又真山

聖天宮と云△井天社と云△胎内瀝の石

○新助撰

今の新助撰を當ふなり抄中よりあるなり
新載集 浅草寺の南の川ありと云

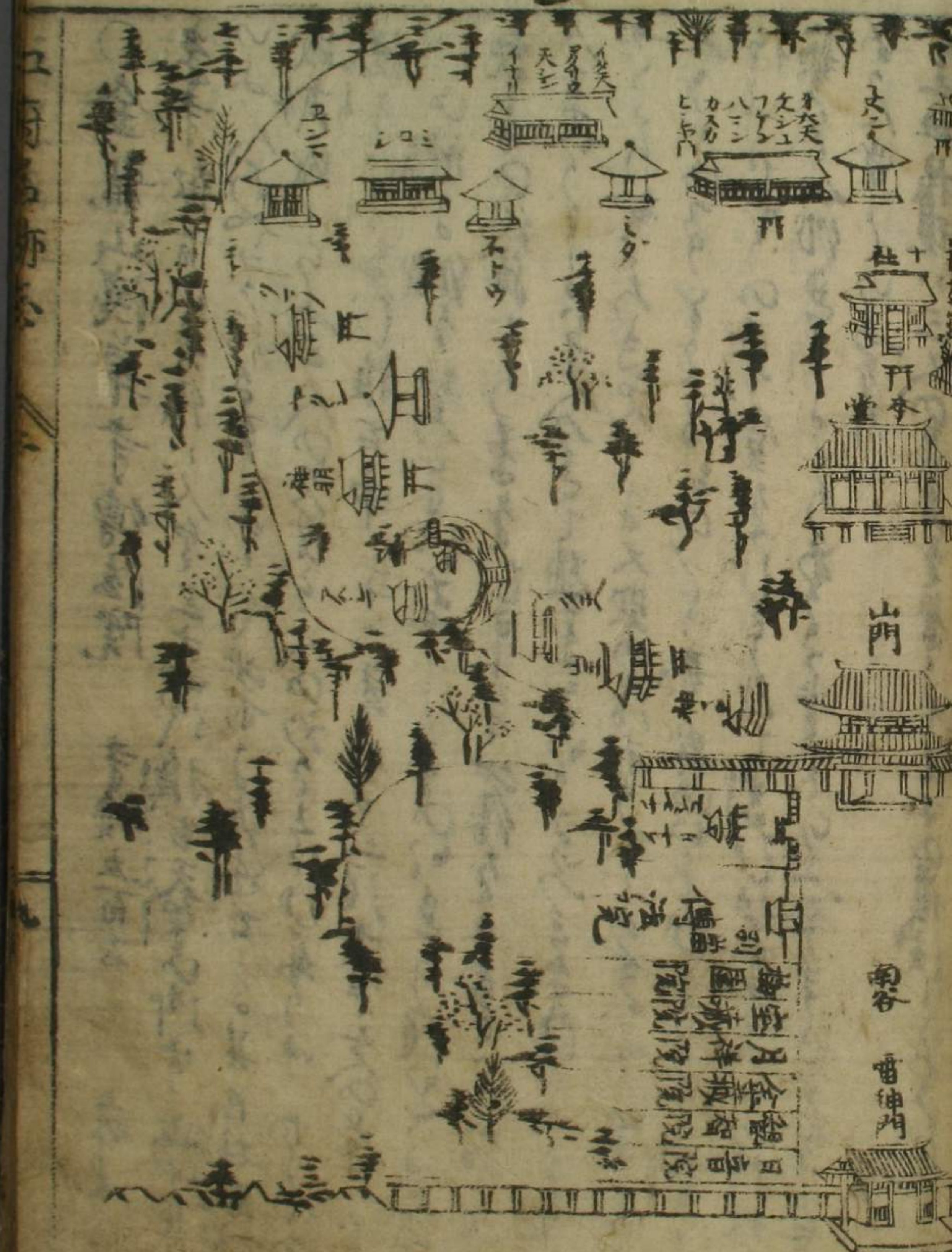
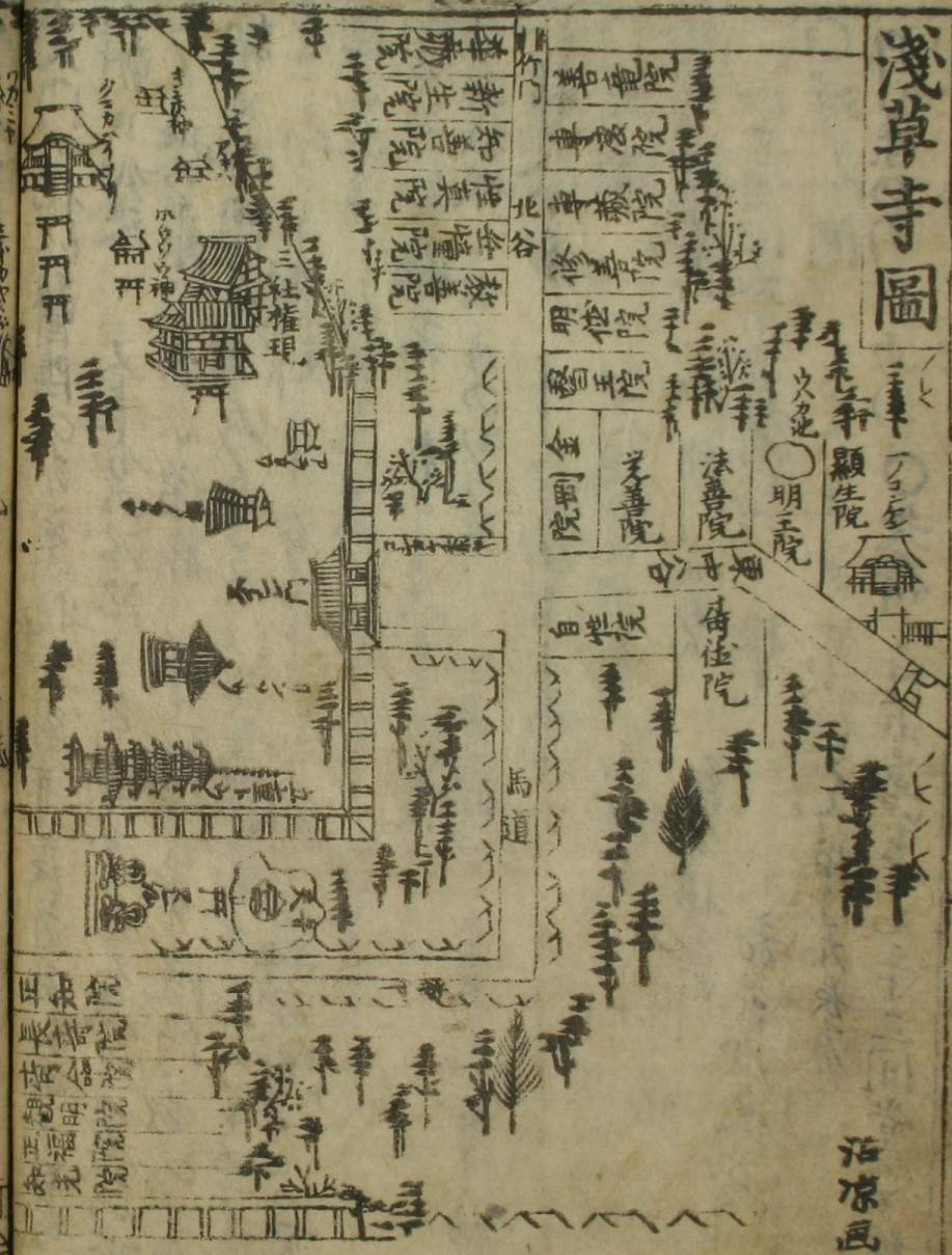
○侍乳山

と云碑あり戸田恭光入道氏職と云

あつと云と云人々もたふすなりと云

浅草寺圖

活凉風



○金龍山浅草寺傳法院

寺額五百石

上野末

孝寺觀音の身像ハ人皇二十代推古天皇の御宇進中臣
 といふ人あやまらる事ありて沙汰る所とせしむる其後推古天皇
 成城成らる二人の兄弟を人の心をさしひけり中臣といふ
 源をいふあひ推古帝二十六年戊子二月十日乙未の事あり
 川の沖に御をあらすいありまものまじり月あきるるを
 親善の伝説なり事をいひて沙汰をさるるその事あり
 乃まかりて二人のまじり推古をあらする事ありて之を
 やりてあらする事ありて大衆の信ありての事二人の事あり
 まうの事ありての事ありて推古の事ありての事あり
 推古の事ありての事ありて推古の事ありての事あり
 藝をいふ事ありての事ありて推古の事ありての事あり
 人皇二十代推古天皇の御宇進中臣といふ人あやまらる事ありて沙汰る所とせしむる其後推古天皇成城成らる二人の兄弟を人の心をさしひけり中臣といふ源をいふあひ推古帝二十六年戊子二月十日乙未の事あり川の沖に御をあらすいありまものまじり月あきるるを親善の伝説なり事をいひて沙汰をさるるその事あり乃まかりて二人のまじり推古をあらする事ありて之をやりてあらする事ありて大衆の信ありての事あり二人の事ありまうの事ありての事ありて推古の事ありての事あり推古の事ありての事ありて推古の事ありての事あり

癸卯三月十八日 晴年

これを觀音の事あり

十社推現

孝寺十人を系

人皇三十代孝德帝大化元年沙門勝海上人堂増建あり
 孝寺十人を系
 人皇六十代朱雀帝天慶五年安房の國主平公雅在是
 中堂門に三皇の塔ありて建ッ 田園ありあり
 人皇七十代白河帝康暦三年十二月四日圓縁
 人皇七十六代近衛帝沙門源義朝孝詣あり回縁の御に觀音
 形ありて世に傳をいひて親善とせしむる其後推古天皇
 の事ありての事ありて推古の事ありての事あり
 人皇八十代高倉帝治承四年源頼朝三十六所の田園あり
 ありての事ありての事ありて推古の事ありての事あり
 足利三氏孝順孝詣ありての事ありて足利十三代將軍義隆
 の時小桑家再興一孝善上人をいひての事ありての事あり

忠海上人の按列の住細川律師定禪の末裔修丹之河との
のりなり之河も宿願のなりありて未子を沙門にい
當寺の別當とれりなり修丹遠くあるをいふに
え流手中心ありて知宗院深倉の退院ありて
東敵山に属す

御當家に至る大伽藍御建立あり今も建立之地なり
本堂 南向 額 觀音堂 大明福澤郡龍邑筆

山門 額 法華寺 筆者不知 毎年正月十一日恒春の
中日法人樓に坐するを免す本堂天井の龍と蛇雲安信画

風雷神門 額 金龍山 三國筆油堂の筆なり
此門の南の老門といふなり松の並ありて今所屋の

輪藏 五重塔 鐘樓 隨身門 門ト云
神明社 法橋社 熊野社 阿摩堂

浅塚井才夫 あり油の泉 石の泉深大魚 弘法大師の
あり油の泉

御供水井 あり油の泉 六角堂地蔵のトにあり
慶長頃浅沙供ありて油の泉なり井なり

慈光大師の遺す櫃 熊野の中ありて
坂間尺飯 多人の堂のつきけ糸に別當代々の墓あり

三才相 八幡宮にありて 本堂のトにあり
八幡を祀り義家真列征伐の時けり本陣なりとてし

その折にさしありて杖なりとてし
小所様 小所の石燈 百座ありて本堂のトにあり今も
石燈は別當のなり人のいふにひつとてし

三社様 三社様殿の筆
荒沢不動 月本 延宝年よりいふ所なりとてし

長石塔の地蔵 弘法大師の代なり本堂のトにあり
小豆八才月の石 ちりちりとの石に熊谷頼義の墓の内にあり

江戸名所志 二

121

當衙門主樣所覆轉

分甲子

て掌し所をのき

補品一經修治

社

卷之五

卷之四

香翰堂

撫上

入土人を尋ねる

加乙卯

七

大國乃服焉

天、王、德、節、之、所、

刑天

東坡

寅
日
某
年

楊本義序 周果題

所美宮

西宮寺之新書

天南宮
歙溪江

1

卷之四

元三丈

文苑世系
卷之五

1

石亭社 子亭社

新加坡
北義堂

孔雀門
うめ、列女、のり、と云

たり甚五郎の殿下の孔雀なり
 その中の鬘をなつて冠をさす
 まうらうとくあり

北門

勢至堂

吳有子

三曼陀堂
看一王子社

燒う池、地の脈を牽き、西井才天

けふの人はかきんていふく
人衆を成る事

此店は就てをとりてその花をこそしける人よりをききし
所を今に衣袋うきひその韻ハ此池へきつめぬかくする事す

九百九十九人なりし人一人の強人やゐる。漢字の歌を
あかりは愛し、あひ笛をふきあふその人の子なり。

日公重て孝子へすも 名昭ふ徳有る事のみ 云ふ家のみ

あはれそひみみく旅人の身は金なりやとてをうてふかき
ふのあはれかぬるをわくとと見えあふまうれあけりよひのの富堂

ありしれども、求あけそ、常子信忠、世子孝の御堂とて、近
武時大照、兒と稱し、姓う爲し、希どうか、ふところ、娘、咲の、弟、方らに

まひつめありども争ふるありしやう競うてゐるは
うまををかしうけし娘の恥をなく是をうてゐるは

て我々との君大蛇とかりて人民を安んずる一社の神
ひやうひやうと我々との神とかりて我々を安んずる

瓶をさくさくし 死ハ沙羯羅龍王の化身とて
 とくう病の時作の爲に井酒を入わたりて木の枝にかけ池より

ういしとて成就とす

二府志亦志

唐申堂

毛際堂

南例

庚申堂

工面觀
地茶

追分の常会

江戸三十二所 二番

一ノ権現

祝生院

東中谷 本のみ

△龜ノ宮

わきまにありありー 龜

△槐

きんぎょのありありー 槐のみあり

専堂坊

きんぎょのありありー 和子あり

新堂坊

牛玉の午 毎月正月一日下堂にありあり

常音坊

牛玉の午の都あり

△この坊は唐風成式成の末並ありー かつふふり 寺の対この坊

△この神輿をち後い

當寺は坂東吹孔十三番のれりなり又いふに示の千一番のれり

から新謂に戸三十一と所の觀あり

一番 山満寺

やほ丁 二番

天神社 けーほ

三 舟乗寺

出川指寺 四

林金寺 けーきん

五 長吉寺

けーきん 六

清林寺 けーきん

七 光源寺

けーきん 八

世々寺 千石木

九 類福寺

けーきん 十

清水 根津社地

十一 忍岡稻荷

上野 十二

藤橋津井天社地

十三 清水

けーきん 十四

正法院 けーきん

十五 新光寺

けーきん 十六

正樹院 けーきん

十六 清水寺

けーきん 十八

天嶽院 けーきん

十七 日輪寺

けーきん 二十

九品院 けーきん

十八 金藏院

けーきん 廿二

浅草寺 けーきん

十九 自性院

けーきん 廿四

泉竜院 けーきん

廿 駒歌堂

けーきん 廿六

回向院 けーきん

廿一 西光寺

けーきん 廿八

本誓寺 けーきん

廿二 灵巖寺

けーきん 卅

正光寺 けーきん

廿三 八幡院

けーきん 卅二

増林寺 けーきん

廿四 三十三間堂

けーきん 卅三

○天口 宗 佛 閣

○東王山 醫王寺 東光院

上野末

用之 慈光大所

一品尊敬教王山門 慈光寺の松林坊賢徳に守

いりて寺院無あり 往古天台宗一百八寺の基ありしに
本より宗師の春日の代に田原隆基の教のすきし宗師
御よりいし御よりいし御よりいし正九月大般若經講
し其の基の寺のありしに小僧の所よりいし
今に寺の寺よりいし寺の寺よりいし

○江北山宝聚院清水寺

上野末

阿彌

開山慈光大師 天長年中 寺創 文祿年中 慶長法所中興し
寺より千の餘りある大師一乃これの代

塔中

福生院

昌福院

智泉院

宝勝院

○正保山東照寺

日末

妙法

○金剛山竜室寺

日末

妙法

○法龍山常福寺

日末

妙法

○法江山金藏寺

日末

妙法

○十輪山宗藏寺

妙法

妙法

○南明山觀音寺

妙法

妙法

○赤城山梵明寺

日末

妙法

○赤城大明神の社あり 信列善美寺乃梵明寺ありしに寺を文祿
寺ありしに附屬也

○浄土宗佛圖

○田嶋山快樂院聖願寺

寺領四百石

門のりしに通

開基見蓮社東譽上人

紫衣地

十八世

親任近譽上人知和尚

本より阿彌陀

春日作

上人の地蔵寺ありて春日より寺の門

林より寺あり

寺の寺あり

△綱山三尊

房列河浦の寺屋より出釈の寺傳あり河浦の

△灌

寺城よりあり 寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり

△灌

寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり

△灌

寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり

△灌

寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり

△灌

寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり

△灌

寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり

△灌

寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり

△灌

寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり 寺の寺あり

○一心山捨世寺 称性院

知恩末

比子町

○用山白卷上人

慶長元年親立

△香光大師六時仏月影の沙都あり 塔中 通光庵 良快庵
注古の小田原にあり 香光の湯治のつゝ 又け地し

○光明山天嶽院

増上末

小寺

○豐徳觀音 云々 併あり

塔院

光樹院

貞松院

古徳院

松嶺院

○田中山清光寺

旧末

門前

○用山信譽上人

中興用山實譽上人

塔院

正光院

松香院

松真院

智徳院

○珠鴻山竜宝寺

百五通末

新寺

○用山是應和尚

慶長年中起立

本寺より分作

寺中

長壽院

院月山

西光院

光恩院

得文院

祿名院

○用明山四天王院聖徳寺

増上末

旧所

○撰取山遍照院新光明寺

知恩末

新寺

用山

寺中

松声院

青木院

貞学院

○常照山正定寺

増上末

新寺

○五臺山源空寺

知恩末

新寺

○信乐山正安寺

旧

新

○青福山行安寺

旧

新

○易生山欣淨寺

旧

新

○実義山九品寺

旧

新

○金光山源寺

旧

新

○清光山源源寺

旧

新

○栄廣山貞源寺

旧

新

○隨龜山松譽教寺

旧

新

○天然山慈眼院

旧

新

○遍照山長壽寺

旧

新

○莊嚴山法華寺

旧

新

○竜宝山廣大寺

傳法末

新

○白竜山光威寺

旧

新

○住心山正法寺

室倉院末

新

○透雲山宗常寺

旧

新

○正業山専光院

天徳寺末

新

寺中

東樹院

○莊嚴山安念寺

新寺

新

○灵照寺増末 新寺

○禪宗 併 圖

○大雄山海禪寺

妙心寺末

新寺

中興 因基 覺印 和尚

此寺は平将門経列相馬にあつて、其創を平久ノトシ
て大破なり。今交長のころ、城の寺の流下、覺印長老がこれ
時、御成の折、板に木を平久もあつた。此の寺の住持の
是寺にやうく、さうく、及び、此の寺の住持の
寺は、此の寺の住持の、さうく、及び、此の寺の住持の

○河内山智光院

城末

新寺

○白雲山金龍寺

城末

新寺

○鳳祥山長徳寺

旧

○赤雲山桃林寺

旧

新寺

○万羊山祇言寺

吉祥寺末

新寺

開山 良山 存久 大和 天文三年 太田 乃 薩 達 志

○万羊山東陽寺

東昌寺末

現住 石 駒 和尚

開山 勅特賜 大 佛 雄 禪 師

△日向野

境内あり

寛文のころ、寺のり、戸田茂隆と云
ふ、さうく、及び、此の寺の住持の、さうく、及び、此の寺の住持の

△日向野 境内あり 寛文のころ、寺のり、戸田茂隆と云
ふ、さうく、及び、此の寺の住持の、さうく、及び、此の寺の住持の

△日向野 境内あり 寛文のころ、寺のり、戸田茂隆と云
ふ、さうく、及び、此の寺の住持の、さうく、及び、此の寺の住持の

△日向野 境内あり 寛文のころ、寺のり、戸田茂隆と云
ふ、さうく、及び、此の寺の住持の、さうく、及び、此の寺の住持の

△日向野 境内あり 寛文のころ、寺のり、戸田茂隆と云
ふ、さうく、及び、此の寺の住持の、さうく、及び、此の寺の住持の

○浅草山東国寺

大 中 末

新寺

○南昌山東岳寺

旧

大 松 寺

大 中 末

新寺

○江月山海雲寺

陽 寺 末

新寺

○天竜山玉宗寺

修 福 寺 末

新寺

○赤龜山法福寺

竜 福 寺 末

新寺

○天竺山本然寺

大 松 寺 末

新寺

○松源寺

大 松 寺 末

新寺

○海嶋山崇福寺伝承未 ○松應寺 大和未 寺下
岡山青山徹和尚中興香山嚴和尚 現任天洲和尚

○真言 佛 閣

○阿舍山常滿寺 後持集 ○神勝山成持院 凡未 凡未
○金月山正福院 凡未 ○青林山龍福寺 凡未 凡未
○麻尾山吉祥院 凡未 ○恵日寺 凡未 凡未
○伍銀山大乘院 後集 ○玉龍山延平院 凡未 凡未
波洲不動 水晶輪井

○廣幡山教義院 後集 ○將軍山密持院 凡未 凡未
○象形山智院 後集 ○花園山清光院 凡未 凡未
○峰松山仙慈寺 凡未 ○鶴亭山感光院 凡未 凡未
○聚雲山龍光寺 凡未 ○金知山宝珠院 凡未 凡未

○神田山日輪寺 時宗 相列 後集 凡未

岡山一遍上人 芝崎の道場 今も弥陀安河源作
為寺の神田の の宗 後集 凡未 凡未 凡未 凡未

岡山上人の河野教智通廣の二男俗名別府通秀といふ
初は知真坊ト云人今五十九代後醍醐帝正中二年相列後及場
藤沢山清淨光寺より剣と御朱印百石乃地なり

○一向 宗 佛 閣

○東本願寺 御裏 京都 輪番

岡基教如上人 此上人の豊後大岡の寺にて 寺金
唯如上人を本寺の門跡と云ふ教如上人の裏中
隠居ありしと云ふ寺ありて寺の裏中
未の寺堂は建ちありしと云ふ西東の寺あり
寺ありしと云ふと裏中ありしと云ふ

塔頭
長教寺
法華寺
善願寺
満願寺
蓮花寺

高福寺
光惠寺
弘教寺
龍興寺
西定寺
止行寺

等光寺
通光寺
宗恩寺
教光寺
宗經寺
長泉寺

嚴金寺
善龍寺
涌泉寺
法融寺
香照寺
歸西寺

國成寺 來慈寺 明法寺 慈愛寺 蓮愛寺 津極寺

法善寺
泉照寺
淨壽
源通寺
源成寺
月明寺

○高龍山報恩寺
元及昭報恩寺宿寺
寺領三石寺并

開山聖心坊 大中良人元祖才子之下德金鼓沼王辛巳陽舍建立

ありに故酒の天神文沙婆をあり業戸帳を案の

松子 又清沙の鹽を煮て其例の

上之三八十一日 鯉二昨 恆恒より今 毎年 毎々 法 西

△親寧上人六十三歳の御影△同回玉の發

同書の教行記六冊

△ 正結の圖

△蛇込の太刀
いふとあり蛇く

△茶臼
磨はよく蛇くして茶臼

△聖人場に去生の骨
聖人長安ありて奥列の土中より掘り出

粮寺
 永新寺
 长善寺
 功德寺
 朗吟寺

塔頭
林光寺
金寺
光照寺
長光寺
眞照寺

高会寺
西支寺
石岩寺
龜瀾寺
止法寺

○本光山善照寺

東未

新編

開基明信
石布善福寺十六代目ノ金也
當八世 秀道

尚書相列小田原より何より代りて之を奉るべきの慶賀の儀

一、建之のては、此等の才を三つにわけて、各管に於て、

敬聖之威少公室振之賜也 寺中 榮啟寺 貞教寺

工部司

一

○西勝寺

東本 寺中 皆應寺 光持寺 万孝寺

○朝金之遍立寺

日 寺中 勝龜山等光寺 東本 寺中 永本

○兼滿寺

日 永本 ○妙香山正行寺 東本 寺中

○一身田流

○至心山觸光院唯念寺

高田流 寺領百正五石

寺中

開基淨因權僧都

塔中

林榮寺

永持寺

南松寺

○光沢山滿志院祇念寺

同流

日 永

開山正傳權僧都法眼

塔中

祇名寺

永持寺

永持寺

永持寺

永持寺

本寺勢別 高田山安量寺院の敷地寺上人の寺別し寺領三百七十石

此一身田建立の後延河院嘉祿二年の寺領寺建立の龜山院

文永九年の寺領寺建立の龜山院

文永九年の寺領寺建立の龜山院

○法華宗佛閣

浅草乃内

○妙祐山幸龍寺

寺國寺末

寺領百正石

比寺所

開基正心院日幸上人

寺中

本寺院

永持院

大教院

大教院

大教院

○大光山善喜寺

身延末

船江

船江

開山寺公院日信上人

三河國善喜寺より

船江より

寺中

十心院

真如坊

中寺坊

中寺坊

中寺坊

寺中

東陽院

妙如坊

妙如坊

妙如坊

妙如坊

○長遠山慶印寺

妙如坊

船江

船江

寺中

善竜院

淨宗院

法性院

法性院

法性院

○善福山盛泰寺

日末

船江

船江

開山日國上人

正保元年春野寺より

寺中

春朝坊

延令坊

N. 30

卷之七

日所

四下

10

四

10

四

五

6

50

1

...

小塚原

荒川より水は是立郡なり

金龜山のありと入塲の海に世に尾作あり

徳泉寺の
最の系を云

わさし、系あり梅丸の母の墳なり、こよ堂と

大野神

ひめろ丸の母は、
梅の子

尺三寸一分の差違ひ
力をすゝむと云ふ事

如龜尾をへりし
湯

子

不詳

肝令厚之

五ノミ

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

今迄の下落する日中迄一ヶ月く下

たけしきありて諸乃寺にあり世傳ふのちを

弘願山寺孫院西方寺
某大雲寺主
淨土宗

巡警乃哲侯職以而凡常會以榮耀の乳主

道心者、徳ある僧に、世人は寺屋のみを道

△行きの源陀 立橋之尺 寺の源陀 尺指の指佛なり

△
とみち一斗 卵端みちになりて尾下のとみちと云来三浦を

角二代目の尾の墓なりと云ふ事ありて今も此の地
に今も少し小石堆に地蔵を向う法名徳安殿心百持と云ふ

三十一

新志載中
卷之八 神主 藏本右直持

新嘉坡之大 ○ 新嘉坡 峇南公 司

○御は豊後山へさし入りて
信に西内院の御院有

日下 五三縣 棠 千谷 桐谷 浩谷 地編新田

百姓所入組の

小塚原の虎土神
別当 荊石山神翁寺

而社をうのう天王と云ふ

開基易祚法順天曆軍中の落名小の留のふ子新まゝとふ

石ありて神影あり黒斑あり。去る、建武丁

△瑞光石
小坂のふもとありあまのたけの作連をくくす

を荊石と云世路うぢぢりていふを小堀子と云

青龜山福壽院天香

長六士同知
荒川に渡
は川より北
是立郡なり

○摺戸河原 大摺の小湊の所是是立都し かしき人の扱てし

○掃部部 子にのちその所しゆるを

辛卯與乃中 乃張の者し 江ノ上二里

○ 禪宗 佛閣

○ 妙龜山慈泉寺 曹洞宗 戸云寺内 必府基慈泉寺未

開基 学宗和尚 寺願二千石 石溪ありて未

△ 千葉介常胤の石塔 △ 岸部宮源三郎 石塔あり 幸

寺院 樹降菴 松吟菴 妙龜菴 鏡池菴 正徳

○ 正量山福壽院 伝説あり 乙辰

○ 雲龜山慶親寺 日記 羽列庵に寺未 今戸に 徳

開山 寺中 潮江院

高寺ハ伝説あり福壽の寺あり 時任丹左衛門守長 寺未

寺人付界 寺あり 藤原物語より寺あり 寺あり 寺あり

○ 春日山東禪寺 日記 伝説あり 寺あり 寺あり

高寺に 北條時元之寺 金佛の徳あり 寺あり 寺あり

○ 長龜山安昌寺 伝説あり 寺あり 寺あり 寺あり

○ 明生山出山寺 日記 寺あり 寺あり 寺あり

○ 淨土 宗 佛閣

○ 飯命山正量寺法源寺 増上末 寺あり

開山 大徳都智海法師 大同元丙戌三月五日 日宋七十九夜尾石溪

石塔開基あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

△ 善光寺の寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

△ 新島別当寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

い 一人の老翁毎日の勤行あり 寺あり 寺あり 寺あり

い 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

い 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

法名 藤原院前左金吾從五位山覚道真阿大居士

△ 梶原通念権大士景道石塔 五輪 延久二庚戌十月廿三日

△ 霞の松 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり 寺あり

○ 常照山心光院 増上末 寺あり 寺あり 寺あり

○ 常照山心光院 増上末 寺あり 寺あり 寺あり

○ 常照山心光院 増上末 寺あり 寺あり 寺あり

○ 常照山心光院 増上末 寺あり 寺あり 寺あり

○ 常照山心光院 増上末 寺あり 寺あり 寺あり

○弘明山瑞雲寺 日下 弘明山太安寺 日下

○後念山道林寺 日下 宋遷山仰光寺 日下

○大蓮山廣法寺 日下 月光山春雲院 日下

○教重山并空寺 日下 光明山通照寺 日下

○在座山松雲寺 日下 彌陀山淨土寺 日下

○旭日山淨土寺 栗東 妙蓮寺 西末 今戸

○通川山蓮宗寺 栗東 けいこ山廣永寺 日下

○谷相山教信寺 日下 林川山永龍寺 日下

○八幡宮 八幡山岳量寺松林院 浅草末 今戸

○砂尾不動 砂尾山不動院橋場寺 日下

○小幡系山王尊帝 日下 龍之湯青院 日下

○鬼子母神 法花宗 智心山日慶寺 日下

七 下谷 池の端 坂本 金杉 蓑輪

○下谷岡 風土記 貢麻狐兔狸山鴉雉雀等又貢暮菰松脂

○忍川 忍川のゆりあなるれなり三津濱あり

○三枚橋 あり

○牛天神社 上野下 御連歌師宗近瀬河昌郁持

祭神北野宮 奈天神 本社 名所記云是上野の徳寺なりとあり

五条天神ハ醫乃祖神ナリ 神代卷 大己貴命与少彦名命經營

天下復爲蒼生及畜産定其療病之方 略 必廣名令公高皇

彦美尊の子也是即一立奈天神ナリ

前書云尚社ハ小奈氏康因東退治の後 日下

牛にのりて撫を執りてて建三牛天神と号するの

年を以て大坂あり 日下

記をうゝるなりと記せり此時代おききせり小糸氏綱上板
 朝真を亡せしハ大永四年なり享保十七年すて二百十年
 なり氏康ハ氏保のるなり又妻志忠法師関東へよりハ
 文有十八年なり享保十七年すて凡二百六十年余に
 竟志法師小園紀行のヨ 永九年正月じさし
 此の五ふ園の優越しゆる徳屋の社五條天神と
 ゆるしゆりかきとる事京とゆり

災登て誰とも表の物に志のうき表の表のトリエ
 なしひよ油^油とてふあり 下略 梅文明八太田道灌
 い戸の城よりありこるなり大永より五十年よりあり
 をきあるの知を中興せしむ毒死なり又半天飛く云ハ
 小石川よりありあり混しむなり小石川は半天飛く云ハ
 氏康よりありあり混しむなり小石川は半天飛く云ハ
 安社の上野の内今 御本坊の志よりあり 大永は半天飛く云ハ
 今の世よりありあり混しむなり 上野は半天飛く云ハ

○正一位 孫荷社

下谷廣德寺前

別為並雲正法院

紫一本 高社下谷の後断乃ちしりありて下谷より出火ありて奈
あまこやくれ北氏子一軒もやけとそりて天野氏乃ち奈々きんざ
の事ありしころ寺社奉祈へ遊々祭れしころ甚後廣徳寺
の事の他は遷座ありと記し只とる事也 祭礼三月十五日 乙卯年

○三絃壎

○三絃堀
佐竹右衛門重年、きのふ之湯敷より、狐うりの
入敷より、世の世のつらき三時過ぎぬと、名をた

○柳原

○柳原
友堂大学改及中一、まゝを津田川よりふと寫す
と又津田川よりふとへ川南を橋田の邊を、而柳原より廣小路
を津田川のふとへ寫す

○佛乃水

○佛乃水 下谷にありと古麻子ニ云 不詳
は井を掘る時 長サ二寸半の萩の俵を堀かゝる云

○幡隨院旧井

○幡隨院（旧井池）のくく板倉（後改倉）のくく角のくく
幡隨院の四他なり妙竜水のくくおめで今にのくく

○根岸里 考の名不なり 元祿の頃市門全焼なりと云ふ
を多く教へて流すて国東のうへにすハ訛ありけりハその卵
かゝるをありなりと云ふ
そゆふ跡を根岸のうへにあり 北凡倫仙

○不忍池 東叡山の麓にて天台四観の湖水澄きふりて
紅白の荷葉を水に映えたるをこゝにまき芝生のふり
誦詠なり馬も車も通らざる
菊岡布仙

池のふりて三所あり五七所あり原に草千枝木のそ
の影をいりて遠古ハ下谷の岡村の岡のふりて
ひいひいささきとて生えたりてたのささきもささきといひ池
をりちりてささきとてささきとてささきといひ又風土記

篠輪津池 貢鯉鮒鰻魚鴈雁鶴鶴鷺鴨鴨
周行十里許程 旱日水不涸霜雨不爲害 祈 旱雨人
詣于茲所祭瀬織津比咩也とあり

式人同云 此池四り十里とあるハ不審なりと云ふ
里ハ云 谷云里なり又同東南北ハ云り西一方平地なり此
下谷神田北と云ふても三里と云ふ 不審 案性古上里ハ町間

大抵六所を二里と云ふなりと云ふ 此池の傍に十村ありて
六所ありて二里と云ふなり又二里を三十六所と云ふハ
正親町院天正年中なり此の三十六禽を表して三十六所と云ふ

法圖は一里跡を築城のふりて松杉を植へて信長云ふ
に余の名を植へてとありふの名を植へてと云ふ 不審

○中嶋辨才天社 神祇啓蒙 竹生嶋社宇賀御魂神在近江国浅井郡
江列竹生嶋を遷す 最勝三經 云 辨才天ハ爲闍浮之長婦又曰在坎窟及河邊

と云ふなり也ハ信長左の神なり 神子ありて天と地を合す云
ふは江列水谷竹生嶋を遷すて遷すなりと云ふ 寛文の頃ハ龍
嶋とて京濱の通船なり 今ハたつて京濱の通船なり

少のうま少橋あり橋をうまひ聖天の小社なりむらあけのま

○六阿弥院 五番目 宝玉山長福寺 東康宗 寺額

用山行基并し 現任三十五世毫研

光明寺の彫刻は長福六龜 今を二阿弥院ともいれり

寺なり謂所 六下り

一番 祥宗 三縁山長福寺 五立本木 二番、九丁

二番 真言 甘露山延命院應時寺 五立本下田 三、八、十五丁

三番 日 伴宝山西光院長福寺 豊徳西原 四、八、十丁

四番 日 宝珠山法藏院与永寺 日端 五、八、廿丁

五番 香 宝玉山常永院長福寺 日如東慶藤 六、八、一丁半

六番 御宗 西屏山宝覺院常光寺 豊徳龜戸

○長井庄 湯徳八景より法燈のあかりをうけし斎院あり

常居の地なりといひつゝ天社の石版下平天の池に雲龍

を下の池なりといふ

○長井堤 比のまの中所のわいの際津乃橋なり此堤のま

なりといふ又ま恋坂の下福井堤の中一の池にうまやうなる

ありひをうると世人といふといふ根所のまのまの堤にて土を

そののこせし紅なりといふ堤をまをそののまの池にあり

○寶盛の墳 湯徳のト。友枝常乃夜中一の池にあり

此古のまのまの明なりといふといふ池にまのまのまのまの

といふといふまを考へていふといふ池にまのまのまのまの

○西辰経行 道春作し 富士沼取部 相國乃寺あり平家北橋

なるあり一平氏まの羽まのいかにありてありてありてあり

此まのまのまの善徳寺のまのまの斎院あり東園に精まの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

○小野照崎大明神 天台 別當小野山嶺照院 上野末 坂中

小野参議公望の靈社 坂中 坂中 九月十九日坂中

参議博学洽聞 兼 歌 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

其の多朝庭にありて 王宮 神 下略 又 不側 令

師大慈を以て佛法を中へ入上人の法を求むかへて是を以て
 一血脈を出すより一師よりして佛法一かふ如く流れて
 法界を融じ是を融竟水と云ふ南寺へ天神下板金雲の如く
 可なり一師の法後世を承るる又此の法を流す出づる今も此の法
 井も今もあつて此の法なり一白道和ある本寺に記別名草の人
 父を玉梅と云元和九月五日入寂于時七十四歳
 △融竟水 境内あり勸世の法を王奉如竟水より一井の法
 中より一かみの法を石碑に記し一かみの法を石碑に記し
 △不瀾石塔 自通和尚の筆 井の法を石碑に記し
 寺院 係良院 向旭院 惠服院 三竜院 智白院
 不化寮四十余宇

○朝見山願成院永昌寺

開基鎮蓮社等奉丈

天正年中長者町下右長者の寺なり山石塔あり
 西隔内申松浦肥前守長母儀永昌院なり

○月峰山宗源寺

増上末

下石

○常光山称仰院

備陸末

此の寺

○紫雲山英信寺

天岸末

旧末

○紫金山静蓮寺

旧末

入石

○子安山西蓮寺

黒谷末

旧末

○安国山良威寺

旧末

旧末

○三宝山盛雲寺

天岸末

旧末

○道見山東蓮寺

旧末

旧末

○東国山西金寺

旧末

合板

○振喜山寂上寺

石見末

旧末

○心光山西光寺

智恵末

新丁

○斤春山恭智院

旧末

旧末

○正智山清永寺

旧末

合板

○佛名山万徳寺

旧末

旧末

○正見山大音寺

旧末

死寺

○月山長松寺

旧末

旧末

○陽徳山長光寺

増上末

合板

○新向山心所寺

法興末

旧末

○油海山春春寺

石見末

トヤ

○津雨寺

増上末

合板

○天台宗

○金光山親王院

上野末

吸中

○慈光山正法寺

上野末

ミノワ

○茶玉山善親寺

旧末

旧末

○東光山浄土寺

旧末

旧末

○茶光山永久寺

上野末

石見末

○宝玉山常永院

旧末

旧末

○禪宗 俳句

○圓満山廣徳寺

大徳寺末

下谷

岡山希叟宗平禪師

天正十九年小田原より

塔頭

徳雲院

桂法院

栄雲院

徳雲院

長春院

永春院 春照院

徳雲院

通玄院

貞空院

慈眼菴

○法林山正慶寺

数条

七丁

○月光山廣安寺

白雲寺末

下谷

○潜竜山東淵寺

旧

集

○蒼嶽山梅林寺

深照寺末

三丁

○淨松山休昌寺

旧

集

○台法山正安寺

天徳寺末

三丁

○天徳山永昌寺

旧

集

○黄雲山竜谷寺

東昌寺末

三丁

○覚法山浄光寺

旧

集

○法輪山泰宗寺

宝勝寺末

下谷

○廣沢山正徳寺

新

集

○功徳山天竜寺

人正寺末

三丁

○瑞光山月洲寺

今

集

○急水山法清寺

竜谷寺末

旧

○万頂山高岩寺

急

集

○普照山宗慶寺

茂林寺末

旧

○浄光寺

新

集

○浄光寺

浄光寺末

旧

○秀光寺

新

集

○浄光寺

上野根岩

南寺に在るのあり 松二十七間あり 英凡四尺余

○東陽山正徳寺

秋

集

○東陽山正徳寺

先寺と云ふ

三丁

○秋葉大権現

神

集

○秋葉大権現

四谷天竜寺末

三丁

○真言宗

○赤明山西藏院

吉祥寺末

下丁

○竜泉寺

後寺末

下丁

○藏破山世尊寺

寺

末

○補陀落字寺

旧

三丁

○藏破山世尊寺

寺

末

○紫玉山一乗院

王福寺末

三丁

○一向宗

○向国山渡名院忠綱寺

東末

下谷七丁

○光明山西法寺

以

集

○福成寺

旧

三丁

○長久山永祿寺

西末

合板

○法蓮寺

旧

入谷

○法華宗佛圖

○觀新山宗延寺

身延寺

船形

下谷

同基日籍上人 寺中

學成院

正理院

心方坊

玄理坊

玄珠坊

○運千山真觀寺

身榮

新所

○法林山蓮花寺

赤松山

寺

○本野山光性寺

日

寺

○榮珠山寂光寺

日

寺

○妙光山宗賢寺

日

寺

○妙光山授寺

日

寺

○盛林山大正寺

赤松山

寺

○佛立山真源寺

光榮山

寺

○金龜山光光寺

赤松山

寺

○宝塔山威嚴寺

日

寺

○寶聚山大久寺

赤松山

寺

○法住山要修寺

赤松山

寺

○法要山施運寺

赤松山

寺

○具誓山常春寺

赤松山

寺

○本立山長生寺

日

寺

○妙宣山法大寺

赤松山

寺

○鳳閣寺

三聖院流江戶關門下谷

二之卷軸

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

